

○今中 正美*、栗畑 亜紀子*、森下 敏子**、道本 千衣子*

(*跡見学園女大短大、**神戸女短大)

目的：わが国では、女性、特に 20 代女性の喫煙率の増加が顕著である。喫煙者からは喫煙習慣をなくし、非喫煙者からは新たな喫煙者を生み出さないよう、禁煙教育を充実させるために、前回より調査対象範囲を広げて、実態調査を実施した。

方法：関西（神戸）と関東（東京）在住の短大生 1651 名を対象に喫煙、禁煙経験、禁煙教育などについて 1999 年 10 月アンケート調査を行った。

結果：①現在喫煙している学生は、関西（神戸）13.1%、関東（東京）20.1%で、関東が有意に多かった。また、喫煙開始時期については高校時代という回答が関東で有意に多く認められた。喫煙理由は「何となく」、初めての喫煙場所では「自分あるいは友人の部屋」、その時一緒にいた人は「同級生」という回答が、半数以上を占め、これらの回答に関西（神戸）、関東（東京）間の差異は認められなかった。

②喫煙者と非喫煙者間に禁煙教育受講の有無による差異が認められたのは関東のみであった。しかし、関西、関東共に喫煙、非喫煙者間の教育時期による差異は認められなかった。

③喫煙者に、父母の喫煙経験者がより多く存在した。

④喫煙者にはアルバイトをしている者、1 日の食事回数が 2 回以下の者が非喫煙者と比べ多いという結果が得られた。